

経営戦略方針「発信力・広聴力向上」の取り組み

令和2年度第3回

長内市長ふれあいトーク

スペシャル対談  
With; 島田妙子さん

「児童虐待から子どもを守るまちとよなか」実施報告



実施日時; 10月25日(日)

11時30分~12時

場所; 子育て支援センターほっぺ

都市経営部広報戦略課



# ☆今回の相手先

一般財団法人 児童虐待防止機構オレンジCAPO理事長

## 島田妙子さん



### <プロフィール>

1972年 神戸市北区生まれ。4歳の頃、両親の離婚で兄二人と児童養護施設に入所。7歳の時、父の再婚で家庭に復帰したが、継母と実父から壮絶な虐待を受ける。2010年、兄が白血病で他界したことを転機に、「児童虐待の予防」にむけての自叙伝を執筆。「大人の心を助ける」講演活動を積極的に行っている。

# ☆対談要旨

●⇒長内市長 ○⇒島田妙子さん

---

## <児童虐待防止活動のきっかけ>

○私は実父と継母からの虐待を受けて育ちました。大人になって、私を励まし続けてくれた兄が病気で亡くなりました。兄の死をきっかけに「私は生きている。動ける。」「自分の人生を生きたい。」と考え、児童虐待防止の活動を始めました。

## <児童虐待防止は大人を救うこと>

○活動を始め、子どもを救うのでは遅い、大人を元気にしていかなければいけないと気づきました。

●児童虐待は大人の問題ですね。子どもが生まれると、大人にとっても大きく環境が変化します。育児書には「怒る」ではなく「叱る」と書いてありますが、それをどう表現すればいいのかわかりません。

○子どもへの怒り方がわからない人が多いです。アンガーマネジメントで表現方法を知ると楽になります。

○私は虐待を受け、死にかけました。今、「私、生きている。すごい！」って自分で言うんです。「生き抜くこと」は、「息を抜くこと」。これも大切なのです。

●子育ての悩みを受け止める場所が増えてきています。地域の子ども文庫は、子どもと一緒に本を読んだり、不安や悩みを聞いてくれる場所でもあります。

### <気づくことの大切さ>

●地域の子育て施設などでは、是非、しんどいことを言ってください。言える人のいる大切さ、聞いてくれることの大切さを感じます。市内にそんな場所を増やしていきたいです。島田さんが虐待を受けていることに気づいたのは、学校の先生でしたね。

○先生のおかげで私の運命は変わりました。学校の先生にも頑張っていたきたいです。

●市内では、ネットワークを組んで気づける人を増やしています。また、気づいた人が行政の窓口などに言いやすいことも大切です。児童虐待を許さないまちを創っていきたいと思っています。

○向こう三軒両隣にどんな人が住んでいるのか知っておいてください。「こんにちは」「何かあったら言ってね」こんなご近所との関係をつくってください。「聞くで～」と言える人を増やしていきたいです。

### <感情をコントロールするトレーニングを>

○感情のコントロールはトレーニングが必要です。教育の中に感情表現やコミュニケーション力をつける機会を取り入れてほしいです。また、腹が立った時の対処法を知ってほしいと思います。婚姻届を出すときや母子手帳交付時に、5分くらいの動画をみていただくのはどうでしょうか。不満を溜めて爆発させるのではなく、日ごろから自分の気持ちを伝えられたらいいと思います。

●子どもたちに豊かなコミュニケーションをしてほしいです。何に腹が立ったのか。なぜそう思うのかを聞いてあげる時間が必要です。親への支援・学校の先生への支援も必要だと思っています。

ありがとう  
ございました！



今後も、市民の皆さん・団体の皆さんと  
情報や課題の共有を積極的に図って  
いきます！